



PFUスキャナー
導入事例

税務・
会計

税理士法人 深澤会計事務所
FUKASAWA TAX & ACCOUNTING CO.

税理士法人深澤会計事務所 中央事務所
業種：税務・会計 従業員数：18名
(税理士2名、事務スタッフ16名/2022年6月現在)



記帳代行業務を自動化し 大幅時短と顧客増対応を実現

業務用スキャナーとAI-OCRの連携で大量の紙証憑をスムーズにデータ化

山梨県甲府市で多数のクライアントに税務・会計サービスを提供する「税理士法人深澤会計事務所」では、ITを活用して内部業務の効率化を進め、クライアント支援に尽力しています。その一環として、同法人の中央事務所ではPFUのA4高速イメージスキャナー「fi-8190」と、AI-OCRで入力・仕訳を自動化するシステムを導入し、記帳代行業務の効率化を実現しました。中央事務所を訪ね、所長の深澤智之さんに詳細をうかがいました。

- 課題** クライアントから預かった領収書など大量の紙証憑を手入力していたため事務スタッフの作業負荷が高く、会計コンサル業務などに充てたい時間も圧迫されていた。
- 解決法** PFUの高速スキャナー「fi-8190」と、AI-OCRによって入力・仕訳を自動で行うシステムを導入。
- 効果** 導入直後に入力・仕訳業務の時短を実感。業務負担軽減を実現したほか、クライアント増への対応、会計コンサル業務や電帳法導入コンサル業務の推進にも時間を割けるようになった。

A4高速スキャナー「fi-8190」を導入して入力・仕訳の自動化を推進

——「深澤会計事務所」の現況について教えてください。

深澤さん 当法人には北口事務所と中央事務所があります。私が所長を務める中央事務所に即して言うと、クライアントは増加傾向にあり、現時点で約200の法人と約500の個人の税務・会計を請け負っています。「経営者が経営に専念できる環境づくりをサポートする」を理念に、総勢18名で営業しています。

——中央事務所では、2022年からPFUの「fi-8190」と、AI-OCRによって入力・仕訳を自動化するシステム（以下、仕訳システムと表記）を連携させて、税理士法人の業務を圧迫する記帳代行業務の自動化を実現されました。それ以前は、証憑の入力と仕訳にどの程度の業務負担が発生していたのでしょうか。

深澤さん 個人の確定申告では年明けから3月までが繁忙期で、法人も3月決算が多いため5月が繁忙期になります。個人・法人とも、繁忙期には事務スタッフ16名がフル稼働です。ただ法人の月次業務だけでもかなりの量になりますから、スタッフは年間を通して常に一定量の入力・仕訳を手作業で行ってききました。



クライアントから預かる領収書などの証憑。これらの内容を入力して仕訳を行う記帳代行は、税理士法人の業務を圧迫する主要因となっています。



中央事務所を導入した「fi-8190」。証憑を高速でスキャンし、OCR処理に最適なイメージデータを生成します。

——「fi-8190」と仕訳システムの導入後、手作業だった証憑の入力と仕訳はどのような業務フローに変わったのでしょうか。

深澤さん 領収書や通帳を「fi-8190」でスキャンし、イメージデータを仕訳システムに読み込ませると、AI-OCRが文字を認識して自動で入力・仕訳が行われるという流れです。

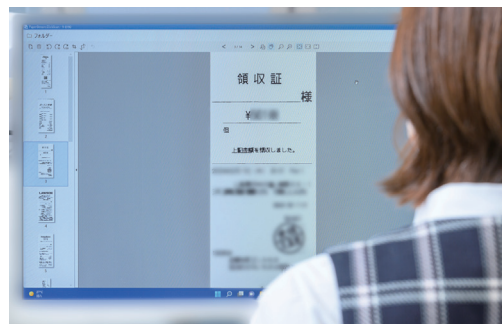
——人の目によるチェックはどの程度行っているのでしょうか。

深澤さん 文字・数字の一致について、一つ残らずチェックしています。仕訳データとイメージデータを画面上で同時に見ることができるので、さほど苦勞せずに確認が可能です。この工程を含めても、手入力と比べれば工数が大きく削減されていますし、確認に時間をかけられるため記帳の精度も上がっているはずです。

——今後どのくらいの時間が削減されると見込まれますか。

深澤さん 現在、年間で述べ1万8000時間ほどを月次業務に割

ており、それが全業務の40パーセントを占めています。この月次業務の多くが入力と仕訳で、スタッフ1人あたりが一日5時間を費やしていることになります。この部分をシステムとスキャナーによって効率化することで、見通しとしては年間1200時間程度の削減が可能と考えています。



「fi-8190」は薄いレシートでもトラブルなく読み取り、正確にイメージデータ化することができます。

高速読み取り性能と給紙性能が紙証憑のイメージデータ化に最適

——「fi-8190」の評価をお聞かせください。

深澤さん 紙証憑のデータ化にはスキャナーというハードウェア、特に給紙性能がいちばん重要です。ここがボトルネックになると何も始まりません。その点で「fi-8190」は素晴らしいスキャナーだと思います。特に読み取り速度と給紙の安定性は群を抜いています。

——証憑はサイズごとに分けてスキャンしていますか。またスキャン後にイメージデータの確認は行っていますか。

深澤さん サイズ混載でスキャンできる機能を活かしています。スキャン後は枚数通りの画像があるかどうかを確認しますが、万が一、

給紙エラーがあった場合には自動で搬送が止まり、どの紙が読み取れなかったか知らせてくれます。信頼性が非常に高いと思います。

——「fi-8190」は地紋除去、印影重なり除去、白抜き文字反転など、OCRに適したイメージデータを生成するためのクリーンアップ機能を備えています。それらの機能はお使いでしょうか。

深澤さん 自治体が発行する「ふるさと納税」の受領証明書などには地紋が入っている場合があるため、地紋除去機能を活用しています。それ以外にも地紋入り証憑があるかもしれないので、常時除去する設定にしています。



サイズの異なるレシートも重ねてセットし、一気に高速でスキャンできます。



「fi-8190」なら通帳もスキャン可能。ページをめくって差し入れるだけで連続的に読み取れます。



散らばりがちな小さな原稿もきれいに整頓する「スタッカーサポーター」を装備。

空いた時間で会計コンサルや電帳法導入コンサルなどを充実させていきたい

——記帳代行業務効率化によって捻出された時間を今後どのように活用されますか。

深澤さん クライアントに対する業績の説明の頻度を上げる、つまり数字に基づく会計コンサル業務の時間を増やしていけるでしょう。また、クライアントの増加への対応も可能になります。当事務所の

目指すところは、クライアントにとってのバックオフィスの最適解を追求してサービスを提供することにあります。電子帳簿保存法導入に関するコンサル業務を含め、顧客のニーズに合った業務改善提案を、これからどんどん行っていく予定です。

